

7-1 小学校 3年生社会科 指導事例 「変わり麺を考え、提案しよう」 (生産)

【単元目標】

地域の人々の生産について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の苦勞を考えるようにする。

- ア 地域には生産に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること
- イ 地域の人々の生産に見られる仕事の特色及び国内の他地域などとの関わり

【目指す子どもの姿】

学習したこと（生産者の苦勞や工夫）をもとにして、自分の考えを再構築し、表明する姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全13時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>A社はどうやって麺を作っているのかな？④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 麺作り体験をする。 C：麺作りをしてとても大変だった。 C：麺を細く切るのが難しかった。どうやって切っているのかな。 ・ 麺作り体験の結果と資料を比較し、学習課題を設定する C：僕たち5人分作るのに2時間もかかった。きっと工場ではたくさんの方が働いていて、みんなで協力して作っているんだと思う。 C：いや、機械で作っているんじゃないかな？ 	<p style="text-align: center;">ポイント1、2</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">自分の考えをもつ</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">自分自身を振り返る</p>
<p>A社へ行ってみよう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社を見学する ・ 工場見学をして分かったことをまとめる 	
<p>A社は、なぜ変わった麺を作るのかな？④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工場見学をして分かったこと、考えたことを話し合う中で、新たな学習課題を設定する。 C：社長さんが大根の葉を使った麺やかじめ（コンブの一種）をねりこんだ麺について話していたけど…。 C：他の市や大きなデパートで売っているのは見たことがないなあ。 C：東京の方の駅にあるそば屋さんの麺になっているみたいだよ。 C：なんでそんな麺を作るのかな？ ・ 工場を再び訪れる等の調査活動を行い、A社が変わり麺作りに取り組む理由を追究する。 ・ クラスで話し合い、変わり麺作りに取り組むA社の工夫・思いについて考える。 	
<p>まちの特色を宣伝する変わり麺を考え、A社に提案しよう③(授業展開例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学区や市（町村）の学習で学んだこと等を生かし、まちの特色を宣伝する変わり麺を考える。 ・ 自分達で考えた変わり麺のアイデアをA社に提案する。 ・ 単元の振り返りをする 	

社会科（3～4年生）における「政治的教養を育む教育」につながる授業展開例

T 「今日の授業は、前回の授業で一人ひとり考えた変わり麺のアイデアをグループ内で発表します。なぜその麺にしたかという理由を話しながら発表してください。発表の後、質問したいことがあれば質問しましょう。それでは、始めてください。」

（グループ活動）

C 1 「ぼくはマグロ麺を考えました。やっぱり僕たちのまちと言えばマグロだから、マグロの身を麺に入れたらおもしろいと思ったからです。」

C 2 「Aちゃんに質問なんだけど、マグロの身をどうやって麺に入れるの？」

C 1 「マグロの身をミキサーかなんかで小さくしたらできるんじゃない。A社の社長さんも大根の葉を使った麺を作る時、そうやったって言っていたよ」

C 2 「でもさ、大根の葉を使った麺はにおいがあまりしなかったけど、マグロ麺だと魚の生臭さが残るんじゃないかな。においはどうするの？」

ポイント1

C 1 「う～ん。」

C 3 「じゃ、そのことはまた後で考えればいいんじゃない。」

ポイント2

（後略）

T 「時間になりました。グループ内での発表を終わってください。今から、それぞれのアイデアをもう一度考え直します。友だちから質問されたことに答えられるように理由を考えましょう。また、その変わり麺を本当に作れるようにするためにはどうしたらよいかについても、学習したことを思い出しながら考えましょう。」

（後略）

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

友だちのアイデアを肯定的に受け止めることを意識させながら活動を進めましょう。

お互いにアイデアを発表する際には、友だちのアイデアを肯定的に受け止めるよう指導しましょう。また、質問に答えられない場合の対処に仕方についても事前に指導しておき、グループの話し合い活動や人間関係をよりよく構築できるようにしていきましょう。

ポイント2

当事者の思いを共感的に理解させましょう。

変わり麺を作っている工場であれば、変わり麺を生産するようになるまでに多くの失敗や工夫・改善があります。地域の生産活動に携わっている人々の苦労や工夫について学習したことを振り返らせる必要があります。当事者の思いを共感的に理解することは社会的事象を自分のことに引き寄せることにつながり、かつ社会参画の意識を醸成していくこととなります。